

「ここまで分かってきた 5Gネットワークスライシング（その2）」

- NTTドコモのネットワークスライシング
- エリクソンのネットワークスライシングに対する取り組み
- NECのネットワークスライシングに対する取り組み

講 師	(座長 —— 総合司会) 上智大学 理工学部 客員教授	服 部 武 氏
	株式会社NTTドコモ ネットワーク開発部 5Gコア担当 担当部長	大 谷 知 行 氏
(講演順)	エリクソンジャパン株式会社 デジタルサービス・ジャパン統括本部 ソリューション本部 シニアソリューションマネージャー	本 館 拓 也 氏
	日本電気株式会社 ネットワークサービスビジネスユニット 第二ネットワークソリューション事業部 マネージャ	渡 邊 正 弘 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山ビル409 TEL 03(3498)0911(代) FAX 03(3498)0909

「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信（機械と機械の通信）と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — PART 845 — 」開催内容
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「ここまで分かってきた5Gネットワークスライシング (その2) 」

日時 2021年 2月 3日 (水) 13時00分～16時50分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none">● NTTドコモのネットワークスライシング● エリクソンのネットワークスライシングに対する取り組み● NECのネットワークスライシングに対する取り組み		
<p>2020年夏のモバイル通信業界における大きな話題の1つに、米国Tモバイル社の5G SAサービスの開始を挙げることが出来る。5G SAによるサービスは、これまでのコンシューマ市場が主体だったモバイル通信の世界に企業向けサービスという新たな扉を開くものである。</p> <p>5G SA導入がもたらす通信事業者ネットワークの様々なアーキテクチャの進化の中でも、とりわけ関心が高い技術がネットワークスライシングである。この技術に対する注目度の高い理由は、様々な異なる要件を持つ企業向けサービスを、共通のインフラストラクチャリソース上で実現するための鍵となる技術であるからに他ならないが、ややマーケティング主導で盛り上がっている感も否めない。</p> <p>一方で5Gネットワークスライシングを支える技術は、端末、無線アクセスネットワーク、コアネットワーク及びトランスポートネットワークというようにエンドツーエンドのモバイルネットワークの上に構築されるものであり、またモバイルの制御信号、ユーザプレーン及びOAMといった異なる階層の技術によって実現されるため、非常に複雑で難解な仕組みである。</p> <p>本セッションの目的は、この様な複雑な5Gネットワークスライシングを可能な限り分かりやすく解説するとともに、通信事業者やネットワーク機器ベンダの立場から、実現までのタイムラインや解決すべき課題などを共有していくことで、今後の5Gネットワークスライシングの方向性をうらなうものである。</p>		
<p>(座長-総合司会) 上智大学 理工学部 客員教授 服部 武</p>		

13:00 ～ 13:15	(開催趣旨説明)	質疑 応答	服部 武氏 上智大学 理工学部 客員教授
13:15 ～ 14:20	「オペレータ視点からのネットワークスライシング」 ● 5G SA時代のネットワークスライシングサービス戦略 ● ネットワークスライシングアーキテクチャ ● ネットワークスライシングサービス導入計画	質疑 応答	大谷 知行氏 株式会社NTTドコモ ネットワーク開発 部 5Gコア担当 担当部長
(休憩／意見交換／名刺交換) (14:20～14:30)			
14:30 ～ 15:35	「エリクソンのネットワークスライシングに対する取り組み」 ● エンドエンドネットワークスライシングソリューション ● 実現のロードマップ	質疑 応答	本館 拓也氏 エリクソンジャパ ン株式会社 デジタルサービス ・ジャパン統括本 部 ソリューション本 部 シニアソリューシ ョンマネージャー
(休憩／意見交換／名刺交換) (15:35～15:45)			
15:45 ～ 16:50	「NECのネットワークスライシングに対する取り組み」 ● エンドエンドネットワークスライシングソリューション ● 実現のロードマップ	質疑 応答	渡邊 正弘氏 日本電気株式会社 ネットワークサー ビスビジネスユニ ット 第二ネットワーク ソリューション事 業部 マネージャ

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

委員長
齊藤 忠夫 東京大学
(運営諮問委員会幹事)

代表幹事
齊藤 忠夫 東京大学
副代表幹事
服部 武 上智大学
森川 博之 東京大学
成宮 憲一 一般社団法人
科学技術と経済の会

幹事
秋本 芳徳 総務省
間宮 淑夫 内閣官房
渡邊 昇治 経済産業省
西尾 崇 国土交通省
立川 敬二 ㈱ハイテックノジ-推進研究所
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

有富寛一郎 ㈱スカパーJSAT
児玉 圭司 日本放送協会
井伊 基之 日本電信電話㈱
澁谷 直樹 東日本電信電話㈱
上原 一郎 西日本電信電話㈱
川添 雄彦 日本電信電話㈱
丸山 誠治 ㈱NTTドコモ
森林 正彰 NTTコミュニケーションズ㈱

木村 文治 NTTアドバンステクノロジー㈱
藤本 秀雄 ㈱エヌ・ティ・ティ エムイー

名誉教授
名誉教授
理工学部 客員教授
大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授
専務理事
大臣官房総括審議官
内閣審議官
商務情報政策局 総務課長
東北地方整備局 企画部長
取締役・特別顧問
顧問
技術局長
代表取締役副社長
代表取締役副社長
代表取締役副社長
取締役 研究企画部門長
代表取締役副社長
代表取締役副社長
代表取締役社長
代表取締役社長

木谷 強 ㈱NTTデータ
吉村 和幸 KDDI ㈱
宮川 潤一 ソフトバンク㈱
石原 直 東京大学大学院
浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所
遠藤 信博 日本電気㈱
新野 隆 日本電気㈱
河村 厚男 日本電気㈱
樺田 龍治 富士通㈱

安田 誠 ㈱日立製作所
伊藤 明男 ㈱日立国際電気
川崎 秀一 沖電気工業㈱
ジ・エシ・ジョン・ウオン / アソリューションズ & ネットワークズ㈱

(主な設立発起人)
齊藤 忠夫 東京大学
吉川 弘之 東京大学
立川 敬二 ㈱ハイテックノジ-推進研究所
(宇宙航空研究開発機構 元 理事長)

杉本 榮一 自由民主党

(最高顧問)
甘利 明 元・経済産業大臣
金子 一義 元・国土交通大臣
林 芳正 元・防衛大臣

取締役常務執行役員
技術統括本部長
代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
工学系研究科 特任教授
代表取締役社長
代表取締役会長
代表取締役 執行役員社長 兼 CTO
執行役員常務
執行役員専務 システムプラットフォームビジネス部門長
副部門長
執行役員
副社長執行役員
取締役会長
代表取締役社長
名誉教授
元 総長
取締役・特別顧問
元 政務調査会 調査役

マルチメディア推進フォーラム – PART845 – 開催

●日時 2021年 2月 3日 (水) 13時00分～16時50分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。
(一部、一般受講も受付けておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●参加申込要領

●受講料 ¥53,450.- (消費税を含む)

●申込先 事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-3498-0911
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-3-10 秀和青山レジデンス 409 FAX (03)-3498-0909
E-mail fm@ahri.co.jp

●申込方法 申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上
(<http://www.ahri.co.jp>)にてお申し込み下さい。

●送金方法 銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普)
三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普)
※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。

●キャンセル フォーラム開催前、1月27日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡をお願い申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は代理の方の出席が当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。

●申込書について ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

----- きりとり線 -----

「マルチメディア推進フォーラム – PART845 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL ()	-
		FAX ()	-
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名(ふりがな)	

支払方法	●銀行振込 () 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一要・不要